

若田名誉館長杯 ローバーロボット大会2012 活動報告

日時 2012年9月1日(土)
9:00~11:45 小学生の部
13:00~16:30 中学生の部
会場 さいたま市青少年宇宙科学館
種目 レスキューコース
サンプルリターンコース
機械学会埼玉ブロック参加者
西田、峯岸、高橋



内容

若田名誉館長杯ローバーロボット大会2012とは、昨年まで15年間行われていた科学者の卵コンテストを引き継いだ大会でもあり、本年度よりローバーロボット大会(9月1日開催)とキャリアシュートロボット大会(1月開催予定)となった。本大会の目的として同年代の仲間と協力し合い、施行錯誤や工夫を重ねながら製作する体験を通して、もの作りの喜びを味わうとともに達成感などを味わわせることや、成果を競い合う場面を設定することによって、科学技術への興味および関心を一層喚起し、創造性豊かな青少年を育成することにある。当日は、午前に小学生の部、午後に中学生の部とに分かれて大会が実施された。以下に小学生の部と中学生の部の大会の状況を報告する。

小学生の部：

小学生の部では、小学校高学年生(4年~6年)の男女が主体となって2名1組で1チーム

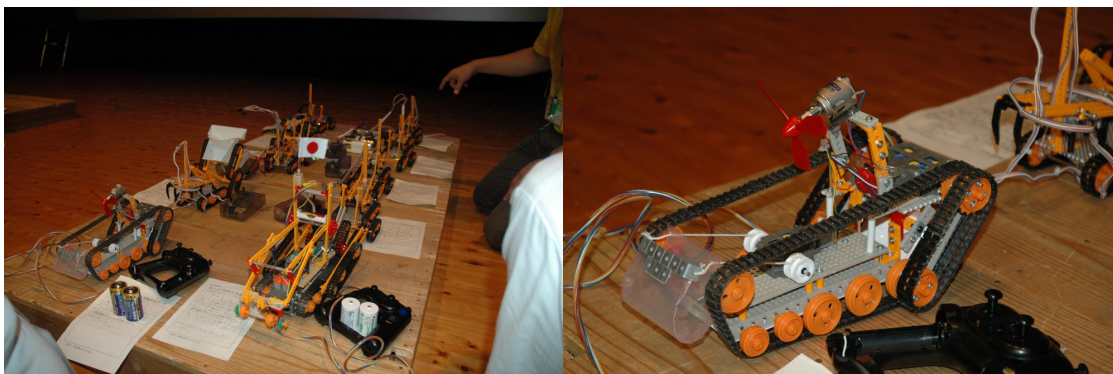
を作り、合計24チームが参加し、盛況であった。

レスキューとサンプルと呼ばれる2種類のコースを各チーム2種類のロボットを使い、

タイムレースにて順位を決めていく方式で実施された。



各ロボットともベースとなる機材は共通の品物ではあるが、キャタピラを使って動かすという事以外は自由に改造してよいという事で、それぞれ独自の工夫が見られ、感心させられた。こういった創意工夫が科学技術への興味、関心につながってくれる事を期待したいと感じた。



中学生の部：

午前の小学生の部に引き続いて、午後から中学生の部が実施された。午前の小学生の部よりもコースが難しくなり、段差も大きくなり、岩の状態もやや難しく設定されていた。完走できないチームも決して珍しくなかった。中学生の部では学校単位で大会に取り組んでいるチームもあり、4チームをエントリーしている学校もあった。また、科学部や理科好きな子供たちの日頃の練習の成果を発表できる場となっていた。そしてトーナメント形式で実施された大会では、各競技でゴールする際に大きな歓声があがるなど大盛況だった。



以上